

多言語多文化研究に向けた複合型派遣プログラム  
派遣先機関等利用マニュアル

2010年9月30日

派遣者氏名（専門分野）	山本 一 （東洋史学）
-------------	-------------

派遣期間	2010年7月26日 ～ 2010年8月9日
------	------------------------

派遣研究機関

国	都市	訪問機関
中国（台湾）	台北	国家図書館（善本書室）

利用マニュアル（利用申請に必要な書類、手続き、リサーチ方法等を記入）

派遣者は台北の国家図書館の善本書室にて、中国清代末期（19世紀後半～20世紀初頭）の知識人の日記資料（王秉恩『王雪澂日記』）等を閲覧した。当該資料は善本として所蔵されている。よって原版の閲覧には申請のうえ、数日間待たなければならない。しかし該室では殆ど全ての善本をマイクロフィルムに複製している。本報告では、国家図書館の基本的な利用から善本書室の活用、マイクロ閲覧などの諸方法を紹介する。

まず、国家図書館の基本的な利用方法であるが、開館時間は火曜日から金曜日が9:00～21:00、土曜日と日曜日が9:00～17:00で、月曜日と祝日が休館日である。また各閲覧室によって開放時間が異なるので注意が必要である。入館に際しては、入口左手の受付にて閲覧証を作成する必要がある。閲覧証は1日限定の「臨時閲覧証」と、有効期限無しの所謂「閲覧証」がある。臨時閲覧証作成の際は、受付でパスポート番号をカウンターの受付表に記入し係員にパスポートを見せればよい。たちどころに臨時閲覧証を受け取ることができる。退館の際にゲートで臨時閲覧証は回収され、再入場を希望する場合はその旨を係員に伝えるか、再度臨時閲覧証を作成する必要がある。有効期限のない閲覧証はパスポートと証明写真（3cm<sup>2</sup>程）が必要となる。受付左手の申請用紙に必要事項を記入の上、証明写真・パスポートとともに受付に提出すればよい。数分で写真入りの閲覧証を作成してくれる。

善本書室は国家図書館の4階に位置する。開館時間は火曜日から土曜日の9:00～17:00、12:30～13:30までは昼休みで、資料の閲覧は可能だが、資料請求は不可能である。また、土曜日にマイクロ以外の資料の閲覧を希望する場合は、事前に連絡が必要である。室内は美しく天井が高く、また派遣者が訪問した期間は総じて利用する人数も少なく、調査活動をするには快適であった。善本の検索には、室内にある全4冊の目録か、外部からもアクセス可能であるネット検索を利用する。目的の資料が見つければ、善本書室右手の受付にある申請用紙に記入する。その際、書名と資料番号を記入するが、ネット検索結果の「索書号」ではなく「登録号」の下四桁を記入する。善本書室にはマイクロリーダーが計6台ほどあり、全てPCと接続している。これによってマイクロリーダーの画面を画像ファイルとしてPCに読み込み、それをモノクロ印刷することが可能である。

国家図書館の特色としては、台湾で書かれた修士・博士論文が全て収められている。これもネット検索が可能である。総じて図書館員は外国人に対しても優しく、熱心に仕事をしており、派遣者がストレスを感じることは殆どなかった。しかし、どの外国での調査にも当てはまるが、現地語を多少なりとも理解でき、図書館員等とコミュニケーションを図り、良い関係を築くことが、調査活動成功の鍵であろう。（国家図書館 URL、<http://www.ncl.edu.tw>（2010年9月30日閲覧））

【国家図書館前にて】



【国家図書館善本書室内】



【マイクロリーダー】

右側のマイクロリーダーでフィルムを閲覧し、左側のPCに画像ファイルとして取り込む。その後、近くに備え付けてあるプリンターでプリントアウトが可能。